

丸 茂 祐 佳

わが国の舞踊学の先駆者小寺融吉は民俗芸能や能などさまざまな分野の研究を行なったが、それらの業績の中で私が最も興味をひかれたのが、日本舞踊の分野である。その中でも、特に動作を分析した人として注目した。動作を分析するという試みは、早くも二作目の著書『舞踊の美学的研究』の中でみられるが、のちにこの仕事は二つの流れに分かれていく。

そのひとつの流れは、『をどりの型』という著書になってあらわれてくるもので、すでに板谷徹氏によって報告されている（「日本における舞踊研究の足跡—日本舞踊史を中心に—」、『舞踊学』創刊号）。

しかし、そこにもうひとつの流れが生じていたことは、今までにあまり取り上げられなかったように思う。それは、分析した動作を整理分類し、科学的に体系化しようとする試みであった。私は日本舞踊の動作を科学的に体系化しようとする試み、その方法を提唱した初めての人が小寺ではないかと思っている。そこで、この研究に焦点を絞り、報告させていただく。

本題に入る前に、小寺の舞踊学と私の出会いについて少し触れておきたい。私は大学の卒業論文に「伎楽踏舞譜」という、嘉永七年（安政元年）に初代西川鯉三郎によってまとめられた『西川流秘伝書』の中にある舞踊譜を考察したが、『西川流秘伝書』の存在は小寺の著書『日本近世舞踊史』の中で知った。言わば、私にとって小寺の本との出会いが舞踊学と接する糸口になったと言っても過言ではない。その後も日本舞踊譜の在り方や日本舞踊における娘形・奴の動作の分析を小寺の方法に学んできた面がある。このようなわけで、未熟ではあるが、小寺の研究について報告することをお許しいただきたいと願っている。

一、分析方法における二つの特色

動作を分析する上において、小寺の方法には二つの特色がみられた。

ひとつは、〈紋切型〉という言葉の応用である。「いつの間にか、かういふ場合には、かういふ型をする」（『日本近世舞踊史』）というのが「紋切型」で、そのひとつに「男にせよ女にせよ、自分の袖を代るがわる見下ろすといふ事があり、貧しい者が自分の貧しさを恥ぢる悲しむといふ場合、又なんとなく自分の哀れさを悲しむ場合に用ゐられる」（前同）として、普通、一般的に呼び慣わしている〈姿見〉という術語の動作をたとえに挙

げて説明している。実技者や振付者は〈姿見〉の意味をあらかじめ知っていて、その振では自分の哀れさを悲しむような気持ちで踊ったり、そのような意味合いの歌詞では〈姿見〉の振を付けたりするわけだが、小寺は多くの舞踊を観察して動作を分析した結果、振付上における法則を見出し、〈紋切型〉という言葉に応用したと思われる。

ここで、小寺が用いる〈型〉という用語は、「尤も型といふものは舞踊の動作以外にも広く用ゐられて」（『舞踊の美学的研究』）とあるように、〈型〉を舞踊の動作の意味で用いることがある。これは、日本舞踊を構成する三要素（舞・踊・振）の意味で〈振〉の用語を用いるために、小寺が意識的に〈型〉と〈振〉を使い分けたものと思われ、この傾向は初期の著書の中で顕著である。

もうひとつの特色は、能ではなく左右〈抱え扇〉など型の名称を使って説明しているにもかかわらず、日本舞踊では術語をほとんど使っていないことである。〈えび反り〉を「例の両膝を下につけて居り、思ひ切りうしろにそる形」、〈女夫指〉を（夫婦となる意味で）「人差指を揃へる」などと、文章を以って動作を説明しているのである。

以上の特色から、小寺には従来の概念にとらわれないで日本舞踊を見つめようとする客観的な洞察力があったことが窺えよう。

二、二つの舞踊譜との対比

小寺は『舞踊の美学的研究』で、第六章足の動作の二様式、第七章腕の動作の均斉と対照、第八章腕の動作、の各章を立て、動作分析の基準を主に四肢に置いた。このうち、第八章の「二、日常生活的動作」の中で、男女の道行物の舞踊から、女のみ動作、男のみ動作、二人とも座った場合、二人とも立った場合に分けて、約四ページにわたり、動作を分析整理している。分析した動作は〈口説と呼ばれる恋の場面の根本的動作〉と書いているが、それは素手の場合としたからで、傾城遊女・姫役など役柄によって持ち物が変わるという前提のもとに、違うバリエーションを想定している。

たとえば、ここで記述された動作ひとつひとつに名称なり記号なりを付ければ、道行舞踊は記号だけでその振を書き表わすことができるほど、綿密かつ正確なものである。おそらく、この研究が進めば舞踊譜の考案へつながったかもしれない。

そこで、その箇所には、「伎楽踏舞譜」と『標準日本舞踊譜』（東京国立文化財研究所編、創芸社、昭和35年）の二つの舞踊譜の譜語と動作の説明を対比させた資料を作成した（一部を文末に掲載した）。その資料に基いて報告したことを、次に簡略に述べる。

小寺が研究者の立場で動作を分析整理した人と

